

上田札幌市長 様

話し合いの趣旨

札幌遠友塾自主夜間中学
北海道に夜間中学をつくる会

ご多忙のなか、わたしたちとの話し合いの席を設けていただき感謝しております。

昨年の上田市長と「共同事業」についての話し合いのあと、札幌市教育委員会生涯学習部推進課長は、つぎのような見解を示されました。

「札幌市立向陵中学校の教室利用については、札幌市教委の『便宜供与』であるが、市教委は札幌遠友塾の活動に対して責任をもっていると認識している。そのため、札幌遠友塾の学習環境の整備について、できることとできないことがあるが支援をしていく。また、いまはまったくない話だが、仮に向陵中学校の教室が使えなくなるようなときは、同等の条件で別の学校を使えるようにする。」

わたしたちはこの見解をとてもうれしく思い、遠友塾受講生やスタッフに報告しました。さらに、道内外の自主夜間中学や公立夜間中学などにも、この情報を発信しました。

また、このことはわたしたちにとって、会場確保や会計の問題を心配することなく、学びの場の充実に向けた授業運営に専念するこ

とができます。

遠友塾スタッフは授業の充実のために、科目や時間数の増加、向陵中学校生徒や教職員、PTA との交流、地域住民との公開授業や受講生発表会などの行事について、これまで何度か検討を重ねその実現を望んでおります。また、遠友塾受講生からも同様のことを直接およびアンケートで意見を聞いております。

本年、わたしたちが提出した札幌市長選挙立候補予定者への公開質問状に、上田市長は、「さまざまな事情で十分な教育を受けられなかった方に、一人ひとりの状況に応じ自分の持てる力を発揮できるよう社会全体で支える必要がある。」と回答されました。

この言葉は、「社会に生きるということが、これほどまでにつらい営みになっている」といわれるいま、人が一緒に生活している、共に生きる・共に生きている、という社会のあり方へ示唆を与えております。

そこからは、夜間中学が地域コミュニティの大切な存在になることで、そのような社会を成すことになり、市民がそれを共に受け受け生きる「市民自治の力」につながり、教育の共同体自治になるとわたしたちは考えております。

そこでわたしたちは、上田市長の「まちづくりの考え方」および生涯学習部推進課長の見解から、札幌市生涯学習の推進に夜間中学の授業運営を位置づけることを趣旨とする話し合いをおこないたい

所存です。

さらに昨年の話し合いで、上田市長は民間・商工会議所などと連携した夜間中学の開設について述べられました。

わたしたちはそのお考えを構想にし、実現のために道筋をつけていくとすれば、なにができどのようなことをすれば良いのかについても、話し合いたいとの思いであります。

以上のこと、よろしく申し上げます。